

# 握った祖母の手 津波で離れた

## 被災者71人 慟哭の手記

東日本大震災で津波に遭い、ともに逃げようと握った祖母の手を離してしまった。宮城県の大学生は祖母を救えなかった自分を責めながら、あの日のことを「一緒にいた最後の思い出だから」と文章につづった。こうした被災者たちの手記を集めた本が反響を呼んでいる。

## 仙台の学生らが制作

「3・11 慟哭の記録」  
(新耀社、2940円)。

東北学院大学(仙台市)の金菱清・准教授(環境社会学)が、「映像や報道では伝えきれない被災者の体験を残したい」と教えずや知

人に協力を求め、岩手、宮城、福島各県を学生と回って71人の手記を集めた。

2月末に出版され、すでに2度増刷。米テレビ局などから取材を受け、英語版の制作も始まっている。

同大2年の渡辺英莉さん(20)は本作りの中心となった一人だ。祖母良子さん(当時67)を亡くした自らの体験を記したほか、原発事故の影響で牛16頭を処分して

福島県飯館村から避難した農家、避難所生活を強いられた岩手県大船渡市の男性らを金菱准教授と訪ねた。

「思い出すのはつらいことだけど、犠牲者が生きた証しを残し、また大地震が起きた時に一人でも多く助かるように記録を残したい」

あの日。渡辺さんは祖母と、宮城県沿岸の七ヶ浜町の自宅から仙台市に出かけた。ケーキを食べ、プレスレットを買ってもらった。地震は帰宅してから起きた。裏山の高台に逃げる



祖母が買ってくれたプレスレットを見つめる渡辺さん。机上に並ぶのは、祖母からもらった祝儀袋(東京都千代田区

と、祖母は「(1960年の)チリ地震でも、ここまで津波は来なかったのよ」と安心した様子だった。

しかし数分後。「黒い水の壁」が押し寄せ自宅をのみ込んだ。「逃げて」と渡辺さんは叫び、祖母の手を引いた。祖母は無表情のまま言った。「家、ダメだ」波に足をとられ、2人の

### 3・11 慟哭の記録

71人が体験した大津波・原発・巨大地震  
金菱清 編 東北学院大学 環境学研究所プロデュース

新耀社